

平成 27 年度 「基礎・基本」定着状況調査(小学校)

国 語

平均通過率

市 76.8%
県 (74.7%)

※ () 内は県平均
を表します。

領域等の定着状況

<タイプⅠ 基本問題>

【タイプⅠ】 80.8% (78.3%)

【聞 く こ と】 95.3% (93.0%)

【書 く こ と】 72.1% (71.6%)

【読 む こ と】 88.8% (88.9%)

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】 78.7% (74.5%)

<タイプⅡ 活用問題>

【タイプⅡ】 59.2% (58.3%)

○タイプⅠ (基本問題)

通過率 60%以上の設問(上位3問)

- 要点の聞き取り
(設問一1) 96.9% (95.5%)
- 適切な接続語の選択
(設問三2) 95.3% (92.8%)
- 司会の役割
(設問一2) 93.8% (90.6%)

通過率 60%未満の設問

- 目的に応じた記述
(設問四2①) 53.1% (54.4%)

○タイプⅡ (活用問題)

通過率 60%以上の設問

- 情報の取り出し (設問五1)
78.9% (79.7%)
- 文章の構成 (設問五2②)
60.2% (53.7%)

通過率 60%未満の設問

- 情報の取り出し・情報を関係付けた記述
(設問五2①) 47.7% (47.5%)
- 情報の取り出し・理由や事例を挙げた記述
(設問六1) 50.0% (52.3%)

結果から考える

○考察

平均通過率が60%を超え、県の平均通過率より2.1ポイント上回っていることから、基礎的・基本的な学習内容はおおむね定着していると考えられます。

○今後の指導について

今後、取り組む必要があるのは、「書くこと」に関する指導です。関連のある事柄を選択して、目的に応じて記述させる指導を行う必要があります。

また、タイプⅡにおいて、複数の資料から必要な情報を取り出させ、それらを関連付けて自分の考えを書かせたり、論理的に説明させたりする指導を充実させる必要があります。

平成 27 年度「基礎・基本」定着状況調査(小学校)

算 数**平均通過率**

市 73.2%
県 (71.6%)

※ () 内は県平均
を表します。

領域等の定着状況

<タイプⅠ 基本問題>

【タイプⅠ】 80.8% (78.5%)

【数と計算】 92.0% (90.0%)

【量と測定】 78.9% (77.1%)

【図形】 60.9% (58.3%)

【数量関係】 75.4% (71.2%)

<タイプⅡ 活用問題>

【タイプⅡ】 48.8% (49.4%)

○タイプⅠ (基本問題)

通過率 60%以上の設問(上位3問)

- 3位数+3位数(設問1(1))
96.9% (94.4%)
- 同分母の分数の加法(設問1(6))
95.3% (92.1%)
- 3位数×1位数(設問1(3))
94.5% (92.5%)

通過率 60%未満の設問

- 三角形の作図(設問8)
54.7% (56.8%)

○タイプⅡ (活用問題)

通過率 60%以上の設問

- 筋道立てた考え方(設問10(1))
82.0% (80.4%)
- 平行四辺形の性質を用いた道のりの比較
(設問11(3)) 63.3% (59.9%)

通過率 60%未満の設問

- 折れ線グラフと棒グラフの関連付け
(設問10(2)) 14.1% (20.5%)
- 条件を満たす時刻
(設問11(1)) 28.9% (32.4%)
- 情報の整理と判断
(設問11(2)) 55.5% (54.0%)

結果からいえること

○考察

平均通過率が60%を超え、県の平均通過率より1.6ポイント上回っていることから、基礎的・基本的な学習内容はおおむね定着していると考えられます。

○今後の指導について

今後、取り組む必要があるのは、「図形」に関する指導です。作図をする際に、図形の約束や性質と結びつけ、図形の理解を深めさせる指導を行う必要があります。

また、タイプⅡにおいて、複数のグラフを関連付けて特徴や傾向を読み取らせる指導や、情報を整理させ、判断の理由を説明させる指導を充実させる必要があります。

平成 27 年度「基礎・基本」定着状況調査(小学校)

理科

平均通過率

市 66.2%
県 (65.3%)

※ () 内は県平均
を表します。

領域等の定着状況

<タイプⅠ 基本問題>

【タイプⅠ】 69.6% (69.7%)

【生命】 70.1% (72.0%)

【エネルギー】 60.4% (61.2%)

【地球】 69.5% (69.6%)

【物質】 81.3% (77.9%)

<タイプⅡ 活用問題>

【タイプⅡ】 58.3% (55.0%)

○タイプⅠ (基本問題)

通過率 60%以上の設問(上位3問)

- 空気の温度と体積の関係
(設問5(3)) 93.8% (91.1%)
- 星座の位置と星の並び方
(設問6(3)) 92.2% (90.9%)
- 車の動くきょりと風の強さの関係
(設問1(1)) 85.9% (80.7%)

通過率 60%未満の設問(下位3問)

- 並列つなぎの回路のつなぎ方
(設問2(1)) 25.0% (22.4%)
- 方位磁針の正しい使い方
(設問6(1)) 45.3% (43.4%)
- 植物の成長の規則性
(設問3(1)) 49.2% (49.2%)

○タイプⅡ (活用問題)

通過率 60%以上の設問

- 空気の体積の変化と生活との関連
(設問5(5)) 80.5% (67.0%)
- 星座の動き方
(設問6(2)) 71.9% (67.5%)

通過率 60%未満の設問(下位3問)

- 昆虫の体
(設問4(2)) 37.5% (28.1%)
- 風のはたらきを利用するもの
(設問1(2)) 48.4% (57.8%)
- 空気のあたたまり方と生活との関連
(設問5(2)) 55.5% (58.0%)

結果から考える

○考察

平均通過率が60%を超え、県の平均通過率より0.9ポイント上回っていることから、基礎的・基本的な学習内容はおおむね定着していると考えられます。

○今後の指導について

今後、器具の操作の意味を捉えさせ、適切な扱い方を理解させるなど、観察・実験の基礎的な技能を習得させる指導の充実を図る必要があります。

また、タイプⅡにおいて、問題解決の過程を通して獲得した科学的な概念を、日常生活の事象に当てはめて説明させる指導を充実させる必要があります。